

会員の方々と事務局を結ぶ……

こねつと通信

2008. SPRING Vol. 5

こども医療ネットワーク



すべてのこどもに適切な小児医療と
快適な闘病生活を

Save the Children
私たちは 離島・へき地の
難病児を支援します



特定非営利活動法人(NPO)

こども医療ネットワーク



平成20年4月 5日(土)・・・チャリティーコンサート

<健康相談会>

平成20年5月18日(日)・・・大口市
6月 7日(土)・・・喜界町(喜界島)

<健康相談会(日程調整中)>

中種子町(種子島) 西之表市(種子島)
屋久島町(屋久島) 龍郷町(奄美大島)
瀬戸内町(奄美大島) 伊仙町(徳之島)
和泊町(沖永良部島) 与論町(与論島)



▲ファミリーハウス外観

「受診のため、奄美大島から鹿児島大学病院(以下鹿児島大)に今回初めて来ました。ファミリーハウスはとても過ごしやすく、料金も安いので本当に助かりました。ぜひまた利用させていただきたい息子のために頑張ります。」(Yさん)

「長崎から毎月鹿児島大病院に通院しています。娘の発病が小

ファミリーハウスをご利用された方々からこんな声が寄せられました



▲ファミリーハウスの窓からみた風景

4のときで現在中一。これまでではクルマで来て、社内で寝てから病院に行くなど、正直つらい通院でした。今回、主治医の先生からファミリーハウスの存在を教えてくださいました。早速泊まることができました。部屋には何でも揃っていることにびっくり。すく便利で心から感謝しています。」(Rさん)

「高知県から初めて鹿児島大に受診にきました。通院という暗くながりがちですが、まるで実家に帰ったような居心地の良いお部屋に泊めていただき、心が温かくなりました。」(Yさん)

「子どもが鹿児島大病院に入院したため利用させていただきました。鹿児島島は訪れたことのない土地でしたが、本当に身近に感じられるところになりました。」(Aさん)

「ファミリーハウスはボランティアの方々のおかげで成り立っていると聞きました。こども医療ネットワークの皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。」(Hさん)

平成20年2月24日(日)午前11時から、鹿児島市内のホテル・ブルーウエーブイン鹿児島、柏の間で、こども医療ネットワークの第三回定時総会が開かれました。(出席者は38名)

平成19年度の事業報告および20年度の事業計画などが発表され、審議された議案はすべて可決承認されました。話題の中心は、19年7月から運営が開始された「ファミリーハウス」の利用状況や、認定NPO法人になるための条件など。

「いま全国のNPO法人数は

こども医療ネットワーク 「第三回定時総会」開催 平成20年2月24日(日) 鹿児島市



3万5、269(平成20年2月現在)。その中で認定NPO法人数は百にも至りませんが、今年度中に認められるよう頑張ります。」と河野嘉文・理事長は呼びかけました。

報告 「こども健康相談会」

平成19年11月3日(土) 沖永良部(和泊町)

沖永良部では昨年引き続き2回目の「こども健康相談会」を開催することができました。子育て支援に熱心な町であり、昨年を上回る50人近い保護者、保育士の方々が参加し、有意義な時間を共有できました。

2時間を越す講演にも、参加者は熱心に聴講されており、蘇生講習会でもほぼ全員が人形を用いて実践訓練を経験することができました。相談会では離島ならではの悩みや相談が多く、小児科専門医不在の地域でのサポートの重要性、また離島のニーズに合わせたNPO活動を今後とも展開していけたら、と思いました。(文責：上野健太郎)

「周囲の人たちの温かさを感じました」

支援金を受け取った親御さんにお話を伺いました

■若年性閉経リウマチで闘病中のK・iさん(10)のお父さん Sさん

「息子が小学2年生のときに発症しました。現在4週間に1度、鹿児島大学病院に通っていますが、離島からの移動なので、船代と宿泊費が大変です。そんな中、皆様からのご支援をいただき、本当に感謝しております。ありがとうございます。」

いま、周囲の人たちの温かさをつくづく感じています。そして、私たちが家族も恩返しができるよう社会に貢献していきたいと思っています。

今回のご支援を通じて、私たちと同じ境遇のご家族がたくさんいらっしゃることも知りました。苦勞も多のですが、皆さん一緒に頑張りましょう。」

こども医療ネットワークでは今後も、健康相談会、講演会、募金活動などを、さまざまな離島やへき地に拡大していく予定です。

「こねっと通信」は、会員の方々と本部・事務局を結ぶコーナーです。ご意見・ご要望など、下記までどしどしお寄せください。
●郵便等……〒890-8520 鹿児島市桜ヶ丘8-35-1 鹿児島大学医学部・歯学部附属病院 小児診療センター小児科内「こねっと通信」係
●eメール……info@kodomo-iryu.org (事務局)
●電話&FAX……099-251-5930 (尚、電話の場合は録音になります。後日事務局よりご返答いたしますので、連絡先・電話番号等を録音してください)

こども救急箱

食物アレルギー

<食事方法にも注意を>

NPO法人こども医療ネットワーク会員
中園伸一(枕崎こどもクリニック院長)

…… 2008年2月18日 南日本新聞掲載 ……

食物アレルギーは、乳児の有病率が5-10%に上るといわれます。アレルギーの発生には、腸の働きが関係していると考えられています。

腸管粘膜の表面積は、大人でテニスコート・五面ほどもあります。この粘膜面には腸管関連リンパ組織(GALT)と呼ばれる、

分なまま腸の粘膜面に達していると考えられます。乳児は腸管透過性も高いので、分子が大きな食物も容易に吸収され、これが抗原として認識される「感作」が成立します。

生体を抗原(異物)から守るのが免疫ですが、食物が異物として排除されてしまふのは困ります。嚴重な仕組みの中にも「お目こぼし(免疫寛容)」が必要で、免疫で一番重要な働きをするリンパ球は、GALTで育成・教育されます。乳児期には、抗原や「お目こぼし」する物についての情報が盛んに教え込まれます。GALTで間違った教え込みが行われたり、腸内細菌叢が乱れたりしたときに食物アレルギーが発症すると考えられています。

ヒトで最大の免疫器官があります。この粘膜表面を、約五百種百兆個の細菌がコケのように覆っていて(腸内細菌叢(そう)、相互に勢力争いをしています。胃腸の消化機能が未熟な乳児は、食物の分解が不十

早食いや大食い、食事の水分摂取は、消化機能を落とすため不意な食物抗原の発生を招く恐れがあります。食事の時はゆっくりとよくかむことが大切です。さらに、食の乱れや清潔すぎる環境、抗菌薬・免疫抑制剤の使用も、GALTや腸内細菌叢に悪影響を及ぼすと考えられており、注意が必要です。

※「こども救急箱」の記事は、2006年4月より南日本新聞に隔週で掲載されてきました。バックナンバーは、こども医療ネットワークのホームページに掲載しています。

ご寄付のお願い

2007年7月1日から12月31日まで、右記の皆様よりご寄付をいただきました。ありがとうございます。

- 今村真理様
- 山田和彦様
- 第55回 九州学校保健学会様
- 山下正行様
- 宝納酒店様
- 田中美佳様
- 原口 務様
- 神本三千男様
- JOY倶楽部コンサート I N霧島実行委員会様
- 柴山良彦様
- 田中敬子様
- 田中隆男様
- 河野保夫様
- 瀬部秀明様
- 丸山拓也様
- きばらん会 宮下政人様
- 三木淑子様
- 川口ますみ様
- 第22回 日本臨床リウマチ学会様
- 有限会社日本ビル オーシャン事業部様

Thank you for your donation



■ 一般寄付

本法人の活動意義をご理解いただき、ご寄付を賜りますようお願いいたします。現金収受の方法は、事務局へお問い合わせください。

■ 個人賛助会員：年会費 ……12,000円

■ 法人賛助会員：年会費 ……120,000円

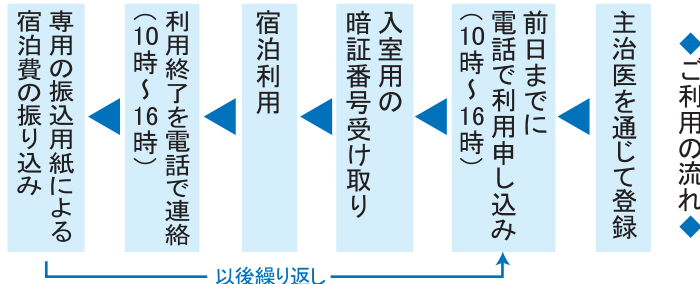
本法人の活動意義にご賛同いただき、活動を支援いただける個人または企業の入会をお願いしております。入会申込書を事務局へご送付ください。

(順不同)

「鹿児島ファミリーハウス」のご利用方法

NPO法人子ども医療ネットワークでは、篤志家のご協力の下に鹿児島市鴨池2丁目(鴨池電停から徒歩1分)と、荒田2丁目(荒田八幡電停から徒歩5分)にあるビルの部屋(1K・1DK)を提供していただき、平成19年7月から鹿児島ファミリーハウスとして運営しています。

- 鹿児島市内の病院に通院あるいは入院する患児とご家族のための宿泊施設です。
- 基本的な電化製品や台所用品、寝具は揃っています。
- 人数にかかわらず1泊1,000円で原則6泊までご利用いただけます。
- 清掃も含めてすべてセルフサービスです。



(ご利用には事前登録が必要です。ご希望の方は主治医までご相談下さい。)

●お問い合わせ先●

特定非営利活動法人 子ども医療ネットワーク 本部

〒890-8520 鹿児島県鹿児島市桜ヶ丘8-35-1
鹿児島大学医学部・歯学部附属病院 小児診療センター小児科内
電話：099-275-5354

特定非営利活動法人 子ども医療ネットワーク 事務局

電話&FAX:099-251-5930

特定非営利活動法人 (NPO) 子ども医療ネットワークとは…

特定非営利活動法人 (NPO) 子ども医療ネットワークは、離島やへき地など、小児医療の専門医が少ない地域にすんでいる子どもさんが、長期間の入院が必要な治りにくい病気にかかった時に、本人およびご家族が安心して闘病できるように支援することを目的に設立されました。病気に対する不安や疑問を解消し、外泊あるいは通院にかかる負担を軽減するための事業を行います。すべてが皆様の共感とご協力のもとに運営されます。

皆様からお預かりした個人情報は、皆様のご案内の発送以外の目的で使用することはありません。また、ご本人の同意なく第三者に開示・提供することはありません。

ホームページは随時更新中です。

<http://www.kodomo-iryo.org/>